

第3学年 音楽科学習指導案

- 1 題材 音のかさなりをきき合ってえんそうしたりきいたりしよう
 教材曲 「あの雲のように」 芙龍明子 作詞
 「二人でおどりましょう」 ファンパーディンク 作曲
 「パフ」 芙龍明子作詞／ピーターヤローウ・レナードリプトン作曲

2 学習指導の考え方

このような子どもたちだから

本学年の子どもたちは、歌やリコーダーの演奏に意欲的に取り組んでいる。これまでに様子を思い浮かべながら楽器の音色の組み合わせを工夫する活動や、フレーズのまとまりに気を付けて歌ったり演奏したりする活動に取り組んできた。前題材の「ゆかいな木さん」では、曲の気分を生かして合奏する中で、拍の流れやリズムに乗って楽しそうに表現することができていた。しかし、複数のパートで構成されている楽曲を、歌ったり演奏したりする経験はなく、互いに音の重なりを感じながら演奏を工夫する活動は初めてである。

このような教材で	このような指導・支援を行いながら
<ul style="list-style-type: none"> ○ 歌唱曲「あの雲のように」は、なめらかでゆったりとした3拍子の曲である。主に3度の重なりで進行する2つのパートは、楽器で演奏すれば簡単に響き合う合奏や重奏を表現することができる。さらに様々な楽器を選んで重なり合う響きの違いを味わいながら、主旋律を中心に楽器の組み合わせを工夫して演奏したり、部分二部合唱をしたりすることができる曲である。 ○ 鑑賞曲「二人でおどりましょう」は、グリム童話「ヘンゼルとグレーテル」の物語をもとにつくられたもので、第1幕で歌われる有名な二重唱の曲である。歌とオーケストラが織りなす美しい響きや、音楽全体の楽しそうな気分を味わって聴くことができる教材である。 ○ 器楽曲「パフ」は、少年ジャッキーペッパーと海に住む竜とのふれ合いを描いている明るくて優しい感じの曲である。主旋律に加えて、副次的な旋律、響きを支える低音、リズム伴奏のパートで構成されており、響きを楽しむことができる。主旋律を大切にしながら、グループごとに楽器の音色の響きを聴き合いながら選択し、それぞれの楽器の音色が重なって響き合うよさを感じ取ることができる。 <p>これらのことから、歌唱活動や鑑賞活動を基盤に据え、声や音の重なり合う響きを感じ取り、器楽曲活動で拍の流れに乗ってさらに豊かに表現していく学習に適していると考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ つかむ段階 まず「あの雲のように」の主旋律を歌ったりリコーダーで演奏したりする中で、曲想をつかむ。次に、4フレーズ目を部分二部合唱したり、2つのパートに分かれてリコーダーで二重奏をしたりすることで、声や楽器の音の重なり合いを感じ取るようにする。さらに、グループで楽器の組み合わせを工夫して二重奏や二部合奏をすることで、音色や音量のバランスを考えながら、拍の流れに乗って演奏することができるようにする。 ○ 深める段階 まず「あの雲のように」のグループ発表会をして、楽器の組み合わせ方や演奏の工夫に気づいて聴くことができるようにする。次に、鑑賞曲「二人でおどりましょう」を聴き、歌声と楽器の音が重なり合う響きの美しさを感じ取ることができるようにする。 ○ 味わう段階 まず「パフ」の主旋律・副旋律を階名唱したり、各パートの旋律を楽器で練習したりして曲想をつかむ。次に、グループでそれぞれのパートに合う楽器を選び、楽器の組み合わせを工夫する。さらに拍の流れに乗って楽器の音の重なり合う響きを聴きながら、合奏をまとめる工夫をする。最後に、グループごとに発表し、それぞれの演奏の工夫に気づき、重なり合う音の美しさを味わうようにする。

このような目標を設定して学習指導を展開します

○ 声や音の重なり合う響きを感じ取って聴いたり、互いの声や音を聴きながら拍の流れに乗って演奏の仕方を工夫したりすることができる。

3 学習指導計画（全10時間）

題材	教材曲	つかむ段階	深める段階	味わう段階
		第1次(3)	第2次(4)	第3次(3)
音のかさなりをきき合ってえんそうしたりきいたりしよう	「あの雲のように」			
	「二人でおどりましょう」			
	「パフ」			

4 (1) 評価と評価計画（題材の展開と題材の評価規準→単位時間ごとの学習計画における評価規準）

	題材の評価規準	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
			声や音の重なりに関心をもって、進んで聴いたり表現したりしようとしている。	リコーダーや鍵盤楽器などの旋律楽器や様々な打楽器による音の重なりを感じ取って、曲想にあった表現を工夫している。	互いの声や音を聴きながら、拍の流れに乗って歌ったり楽器を演奏したりしている。
本題材で取り上げる活動と評価のかかわり	歌唱	○	○	○	
	器楽	○	○	○	
	音楽づくり				
	鑑賞	○			○

学習過程	主な学習活動と内容	単位時間ごとの学習における具体的な評価規準			
第1次	ねらい：音の重なり合いを感じ取りながら、拍の流れに乗って演奏する。				
つかむ段階①	○ 「あの雲のように」の曲の感じをつかむ。 ・ 曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと 活用	① 自然で無理のない声で歌うことへの興味・関心をもっている。 [歌唱] (発言, 観察, ノート)			
② 本時 3 の 1	○ 声の重なり合いを感じ取って歌う。 ・ 互いの歌声や副次的な旋律を聴いて歌うこと 習得			① 旋律の流れの中でフレーズ感、強弱や速度などに気をつけて、自然で無理のない響きのある声で歌っている。[歌唱] (発言, 演奏の聴取)	
③	○ 楽器の組み合わせを工夫して、二部合奏をする。 ・ 互いの音を聴いて音を合わせて演奏すること 習得			② 楽器の組み合わせを工夫しながら、範唱や範奏を聴いたり、楽譜を見たりして合奏している。[器楽] (観察, 演奏の聴取)	

<p>第2次</p> <p>深める段階①</p>	<p>ねらい：歌声と楽器の音が重なり合う響きを感じ取って、表現したり聴いたりできるようにする。</p>				
<p>②</p> <p>本時の3の5</p>	<p>○ 「あの雲のように」の音の響きの重なりに気をつけて楽器を選び、合唱奏する。</p> <p>・ 音の重なり合いを感じながら演奏すること 活用</p>	<p>② 歌劇の音楽の楽しさを感じ取ろうとしている。</p> <p>【鑑賞】（表現，観察，発言）</p>	<p>① 声や楽器の組み合わせによって生まれる響きや和声の響きを感じ取って曲想表現を工夫している。【歌唱】（観察，演奏の聴取）</p>		<p>① いろいろな種類の楽器や声の組み合わせによって生まれる響きの広がりを感じ取って聴いている。【鑑賞】（発言，ノート）</p>
<p>③</p>	<p>○ 「パフ」の曲想をつかみ、主旋律をリコーダーで演奏する。</p> <p>・ ハ長調の楽譜を見て演奏すること 活用</p>			<p>③ 範奏からリズムや音程，音色の響きなどを聴き取ってリコーダーを演奏している。【器楽】（観察，演奏の聴取）</p>	
<p>④</p>	<p>○ 拍の流れに乗って，ベースやリズムのパートの演奏をする。</p> <p>・ 互いの楽器の音や伴奏を聴いて，音を合わせて演奏すること 習得</p>			<p>④ リコーダーや旋律楽器のフレーズや音の重なりに気をつけて合奏している。【器楽】（観察，演奏の聴取）</p>	
<p>第3次</p> <p>味わう段階①</p>	<p>ねらい：重なり合う音の美しさを感じ取って，演奏の仕方を工夫する。</p>				
<p>①</p>	<p>○ グループに分かれ，それぞれのパートに合う楽器を選び，組み合わせを工夫する。</p> <p>・ 音色の違いに気を付けて演奏すること 活用</p>	<p>③ 楽器固有の音色や美しい響きに興味関心を深めながら，友達と協力して楽器を選ぼうとしている。【器楽】（ノート，発言）</p>			
<p>②</p> <p>本時の3の4</p>	<p>○ 楽器の音が重なり合う響きを聴きながら，工夫をする。</p> <p>・ 互いのパートを聴いて，音を合わせて演奏すること 習得</p>		<p>② 拍の流れ，フレーズ，音符の長さ，強弱の変化などの特徴を感じ取って曲想や表現の工夫をしている。</p> <p>【器楽】（観察，演奏の聴取）</p>		

③	○ それぞれのグループの演奏を聴き、良さや工夫を発表し合う。 ・ 音の重なりや響きを感じ取って演奏すること 活用		③ 友だちと一緒に心を合わせて演奏することのよさや楽しさを感じ取っている。【器楽】(発言, ノート)	② いろいろな種類の楽器の組み合わせによって生まれる響きの広がりを感じ取って聴いている。【器楽】(発言, ノート)
---	--	--	--	---

(2) 観点別評価の進め方

【音楽への関心・意欲・態度】

学習活動における具体的評価規準	具体的な評価方法とCと判断される場合の支援
<p>アー① ○ 自然で無理のない声で歌うことへの興味・関心をもっている。</p> <p style="text-align: right;">【歌唱】</p> <p>(発言, 観察, ノート)</p>	<p>● 評価方法 この評価規準については、歌唱表現している様子を観察していく。範唱を聴いて、表現の工夫に気づきグループで話し合っている様子を観察したり、学習プリントの書き込みから判断したりしていく。</p> <p>● Aと判断するキーワード</p> <p><input type="checkbox"/> 曲想にふさわしい歌い方の工夫などの音楽的な発言</p> <p><input type="checkbox"/> 歌唱表現への思いや願いを表現するための集中した練習</p> <p>曲想をつかむ際に、楽曲を漫然と聴いているのではなく、音楽の要素と結び付けたり、歌詞の表す情景を思い浮かべたりして聴いている。また、繰り返し練習する際に、最初から機械的に繰り返しているのではなく、自分なりのこだわりや課題をもって部分的に集中して練習をしている。</p> <p>● Cと判断される子どもへの支援 個別に指導する。教師が本人の意見を聞き取り、他の友だちに伝えていく。また、一人ひとりのよいところを認めていくような雰囲気ができるように、教師が子どもの発言を全体に広げたり、発言を受けて助言したりする。</p>
<p>アー② ○ 歌劇の音楽の楽しさを感じ取ろうとしている。</p> <p style="text-align: right;">【鑑賞】</p> <p>(表現, 観察, 発言)</p>	<p>● 評価方法 この評価規準については、曲を聴いているときに、歌劇の音楽にのって体をつかった表現をしたり、口ずさんだりして、楽曲の楽しさを積極的に感じ取ろうとしている様子を観察していく。さらに、表現の工夫に気付いた発言時の様子や、発言の内容からも判断していく。</p> <p>● Aと判断するキーワード</p> <p><input type="checkbox"/> 集中した聴き方 <input type="checkbox"/> 身体反応しながら聴く姿</p> <p><input type="checkbox"/> 歌声や楽器の音の重なりに関する音楽的な発言</p> <p>身体反応しながら楽しそうに聴いたり、集中して聴き、進んで発言する子ども、歌声やいろいろな楽器で表現されている歌劇の音楽のよさに気づいた音楽的な発言が見られたりする子どもをAの対象としていきたい。</p> <p>● Cと判断される子どもへの支援 身体反応しながら自分なりの音楽の感じ方、聴き方をしている子どもの様子を見せ、よさを伝えたり、「音楽の言葉」カードを提示して、自分の感じたことを選択させ、言葉で表すよう支援していく。</p>

<p>アー③</p>	<p>○ 楽器固有の音色や美しい響きに興味関心を深めながら、友達と協力して楽器を選ぼうとしている。</p> <p style="text-align: center;">【器楽】 (ノート、発言)</p>	<p>● 評価方法 この評価規準については、グループで活動する様子を観察したり、子どもたちと会話をしたりする中から判断していく。学習プリントを準備し、その楽器を選んだ理由の書き込みからも判断していく。</p> <p>● Aと判断するキーワード</p> <p><input type="checkbox"/> 様々な楽器を積極的に試している。 <input type="checkbox"/> 友達の意見を尊重しようとする態度</p> <p>様々な楽器を積極的に試し、主なふしを飾るふしなど、各パートの役割を考えながらふさわしい楽器を見つけようとしている子どもをAとしたい。音の出し方や、音色の違いを感じ取りながら楽器を選ぶことがポイントとなる。また、グループで話し合うときは自分の意見をたくさん出しながら、友達の意見も尊重し、よりよい楽器を選ぼうとする態度を大切にしたい。</p> <p>● Cと判断される子どもへの支援 個別に指導する。共に活動することで、様々な楽器への関心を高めるようにしたい。</p>
------------	---	---

【音楽的な感受や表現の工夫】

学習活動における具体的評価規準	具体的な評価方法とCと判断される場合の支援
<p>イー①</p> <p>○ 声や楽器の組み合わせによって生まれる響きや和声の響きを感じ取って曲想表現を工夫している。</p> <p style="text-align: center;">【歌唱】 (観察、演奏の聴取)</p>	<p>● 評価方法 この評価基準については、グループで演奏している様子を観察したり、子どもたちと会話をしたりする中から判断していく。また、演奏を聴き合った後の、子どもの発言や学習プリントへの書き込みからも判断していく。</p> <p>● Aと判断するキーワード</p> <p><input type="checkbox"/> 美しい音の響きの追求 <input type="checkbox"/> リーダーシップ</p> <p>より美しい音の重なりが生まれるように、美しく響いている状態を判断し、グループの友達に伝えたりするなどして、演奏をまとめようとしている子どもをAと判断する。また、音の出し方や歌い方を工夫するなど、より美しい響きが生まれるよう工夫して表現している子どももAとしたい。</p> <p>● Cと判断される子どもへの支援 一緒に演奏の仕方を工夫したり、グループの友だちからのアドバイスを振り返らせたりする。</p>
<p>イー②</p> <p>○ 拍の流れ、フレーズ、音符の長さ、強弱の変化などの特徴を感じ取って曲想や表現の工夫をしている。</p> <p style="text-align: center;">【器楽】 (観察、演奏の聴取)</p>	<p>● 評価方法 この評価規準については、グループで練習に取り組んでいる様子を観察したり、子どもたちと会話をしたりする中から判断していく。</p> <p>● Aと判断するキーワード</p> <p><input type="checkbox"/> 自分なりに表現を工夫 <input type="checkbox"/> 美しい音の重なるの追求 <input type="checkbox"/> リーダーシップ</p> <p>きちんと音の出だしや長さをそろえたり、拍の流れに乗って演奏したりでき、さらに自分なりに表現を工夫して演奏している子どもをAと判断する。また練習の過程でより美しい重なりになるようにグループの課題を見つけ、解決するために声をかけたりすることも大切にしていきたい。</p> <p>● Cと判断される子どもへの支援 友達の演奏や範奏を聞かせたり、できるようになったことをほめたりしながら意欲をもって取り組めるようにする。個別に練習する時間をとるようにする。</p>

<p>イー③</p>	<p>○ 友達と一緒に心を合わせて演奏することのよさや楽しさを感じ取っている。</p> <p style="text-align: center;">【器楽】</p> <p style="text-align: center;">(発言, ノート)</p>	<p>● 評価方法</p> <p>この評価基準については、グループで演奏しているときの表情や態度、様子を観察する。また、演奏をした後の子どもの発言や学習プリントへの書き込みからも判断していく。</p> <p>● Aと判断するキーワード</p> <p><input type="checkbox"/> 音の重なりよさを感じ取った発言 <input type="checkbox"/> 生き生きとした表情</p> <p>発表の際に、友だちと顔を見合わせて笑顔でみんなの演奏と合わせようと演奏している子どもや、演奏の後にみんなで演奏することの楽しさやその演奏のよさに関する発言をしている子どもをAとしたい。</p> <p>● Cと判断される子どもへの支援</p> <p>一人で演奏したときとみんなで演奏したときの違いを振り返らせたり、みんなと出だしをそろえたり体を動かしたりすることで、一緒に演奏するよさや楽しさを感じ取れるようにする。</p>
------------	---	--

【表現の技能】

学習活動における具体的評価規準	具体的な評価方法とCと判断される場合の支援
<p>ウー①</p> <p>○ 旋律の流れの中でフレーズ感、強弱や速度などに気をつけて、自然で無理のない響きのある声で歌っている。</p> <p style="text-align: center;">【器楽】</p> <p style="text-align: center;">(発言, 演奏の聴取)</p>	<p>● 評価方法</p> <p>この評価基準については、歌唱表現している様子を観察していく。声の重なりによって生まれる響きの美しさを感じ取りながら、主旋律と副次的な旋律の声量のバランス、音ののばし方や終わり方、伸びのある美しい声の出し方などに気をつけて二部合唱に取り組んでいる姿から技能的な状態を判断していく。</p> <p>● Aと判断するキーワード</p> <p><input type="checkbox"/> 無理なく伸びのある声で <input type="checkbox"/> 音の延ばし方や終わり方</p> <p><input type="checkbox"/> 互いの声を聴き合って <input type="checkbox"/> 声量のバランス</p> <p>呼吸の仕方に気をつけるとともに、音ののばし方や終わり方に気をつけていないに歌っている子ども、さらに、友達の声に耳を傾けてみんなの声と合わせて歌ったり、伴奏や副次的な旋律を聴いて声量のバランスを考えながら歌ったりしている子どもをAとしたい。</p> <p>● Cと判断される子どもへの支援</p> <p>教師や子どもの範唱を聴かせたり、一緒に歌ったりすることを通して歌い方を体感できるようにする。また、授業時間とは別に、全校音楽や学級の音楽タイムの時間を活用して個別に指導する。</p>
<p>ウー②</p> <p>○ 楽器の組み合わせを工夫しながら、範唱や範奏を聴いたり、楽譜を見たりして合奏している。</p> <p style="text-align: center;">【器楽】</p> <p style="text-align: center;">(観察, 演奏の聴取)</p>	<p>● 評価方法</p> <p>この評価基準については、子どもたちのグループを回りながら、一人ひとりの技能的な状態を観察していく。また、個人練習の際も子どもたちの状態をじっくり観察したい。</p> <p>● Aと判断するキーワード</p> <p><input type="checkbox"/> きれいなタンギングや適切な奏法</p> <p><input type="checkbox"/> 音の重なりによる響き合いを感じながら、音の強さやパート間のバランスを工夫。</p> <p>音色の組み合わせやバランスなどを考えて楽器を選択しているかどうかをよく見る。特に第2と第4フレーズは副次的な旋律が主旋律よりも高いので、主旋律を際立たせるための音色を考えている子どもをAとする。</p> <p>● Cと判断される子どもへの支援</p> <p>技能面で不十分な子どもについては、授業時間とは別に個人指導の時間を設けることとする。必要に応じて、自宅学習等での課題とする。向上したところは認め、賞賛し、自信をもつことができるようにする。</p>

<p>ウー③</p>	<p>○ 範奏からリズムや音程、音色の響きなどを聴き取ってリコーダーを演奏している。</p> <p style="text-align: center;">【器楽】 (観察, 演奏の聴取)</p>	<p>● 評価方法 この評価規準については教師が数小節ずつ範奏し、少しずつ演奏できるようにする。その際、子どもたちの中を回りながら一人一人の技能的な状態を観察していく。</p> <p>● Aと判断するキーワード <input type="checkbox"/> きれいなタンギング <input type="checkbox"/> きれいな音色 範奏に続けてすばやく主旋律や副旋律を演奏できるようになる子ども、きれいな音色で、タンギングもきちんとできている子どもをAと判断する。</p> <p>● Cと判断される子どもへの支援 きれいな音色で演奏したり、きれいなタンギングで演奏したりできるように、そばで実演して見本を示すようにする。</p>
<p>ウー④</p>	<p>○ リコーダーや旋律楽器のフレーズや音の重なり気をつけて合奏している。</p> <p style="text-align: center;">【器楽】 (観察, 演奏の聴取)</p>	<p>● 評価方法 この評価規準については、グループごとにベースパートを楽器で演奏したり、リズムパートを手拍子でリズム打ちしたりする活動の様子を観察していく。</p> <p>● Aと判断するキーワード <input type="checkbox"/> 何度やっても正確にできる <input type="checkbox"/> すばやくできる すばやく音やリズムを覚え、繰り返し行っても正確に演奏できる子どもをAと判断する。また、拍の流れを意識しながら演奏している姿を大切にしていきたい。</p> <p>● Cと判断される子どもへの支援 周りの友達の演奏に目を向けさせることで違いに気付かせたり、傍でアドバイスをしながら一緒に練習したりするようにする。</p>

【鑑賞の能力】

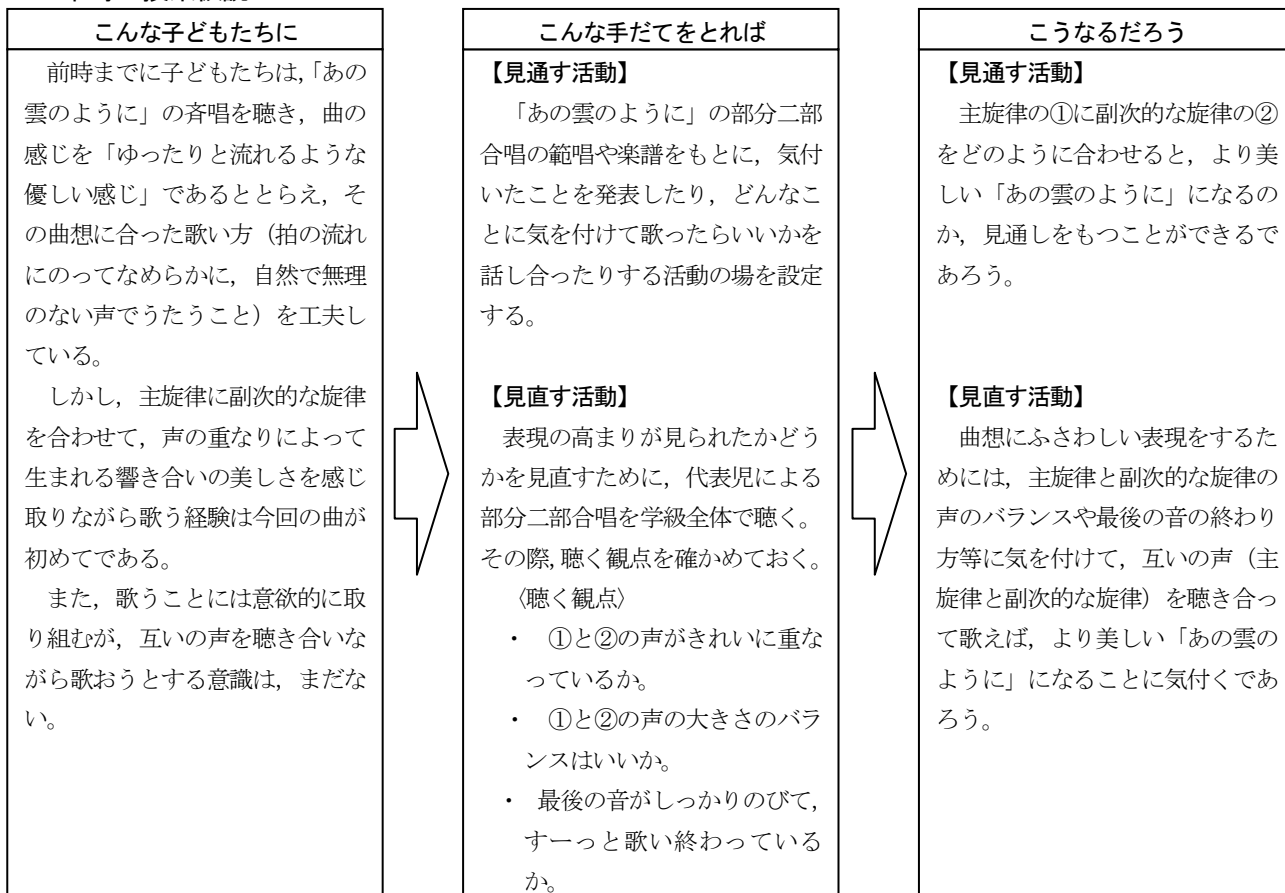
学習活動における具体的評価規準	具体的な評価方法とCと判断される場合の支援
<p>エー①</p> <p>○ いろいろな種類の楽器や声の組み合わせによって生まれる響きの広がりを感じ取って聴いている。</p> <p style="text-align: center;">【鑑賞】 (発言, ノート)</p>	<p>● 評価方法 鑑賞後に、子どもたちに歌といろいろな楽器の重なりについての投げかけをし、感想発表の内容を観察する。また、学習プリントへの書き込みからも評価する。鑑賞中の表情、態度、授業後の教師との会話なども加味しながら判断していく。</p> <p>● Aと判断するキーワード <input type="checkbox"/> いろいろな楽器と歌声の重なり効果やよさへの気づき 場面によって、歌声が変わったり、いろいろな楽器が重なったりすることを感じ取ることはできるだろう。そこからさらに、いろいろな楽器と歌声が重なると、全体の響きも広がり、より楽しい雰囲気を引き立てていることに気づき、自分なりの言葉で表現している。</p> <p>● Cと判断される子どもへの支援 学習プリントに何もかけないような子どもについては、直接会話をし、その受け答えの中から、本人の気付いていることを明確にできるようにする。</p>
<p>エー②</p> <p>○ いろいろな種類の楽器の組み合わせによって生まれる響きの広がりを感じ取って聴いている。</p> <p style="text-align: center;">【鑑賞】 (発言, ノート)</p>	<p>● 評価方法 この評価規準については、子どもたちとの会話やグループの演奏を聴いて感じたことなどをたずね、その発言内容から判断していく。また、学習プリントへの書き込み状況からも評価する。</p> <p>● Aと判断するキーワード <input type="checkbox"/> 様々な種類の楽器の重なり効果や良さへの気づき 相手グループの良さや工夫に気づき、共通事項と関連させながら的確にその良さを表現している子をAと判断する。</p> <p>● Cと判断される子どもへの支援 学習プリントに何もかけないような子どもについては、直接会話をし、その受け答えの中から、本人の気付いていることを明確にできるようにする。</p>

5 本時 (2/10 つかむ段階) 公開授業② 3年 組教室にて 指導者

6 本時の目標

- 主旋律と副次的な旋律の重なり合いを感じ取りながら歌うことができる。

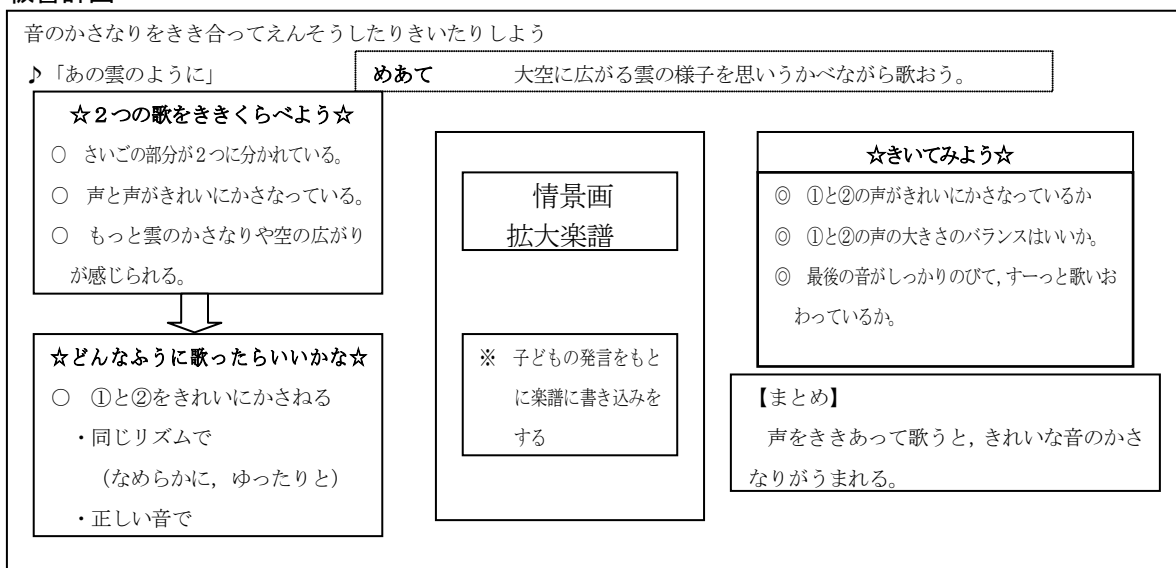
7 本時の授業仮説





8 準備

- 教師…情景画，縦書きの拡大歌詞，拡大楽譜，伴奏CD
- 子ども…教科書，筆記用具

9 板書計画



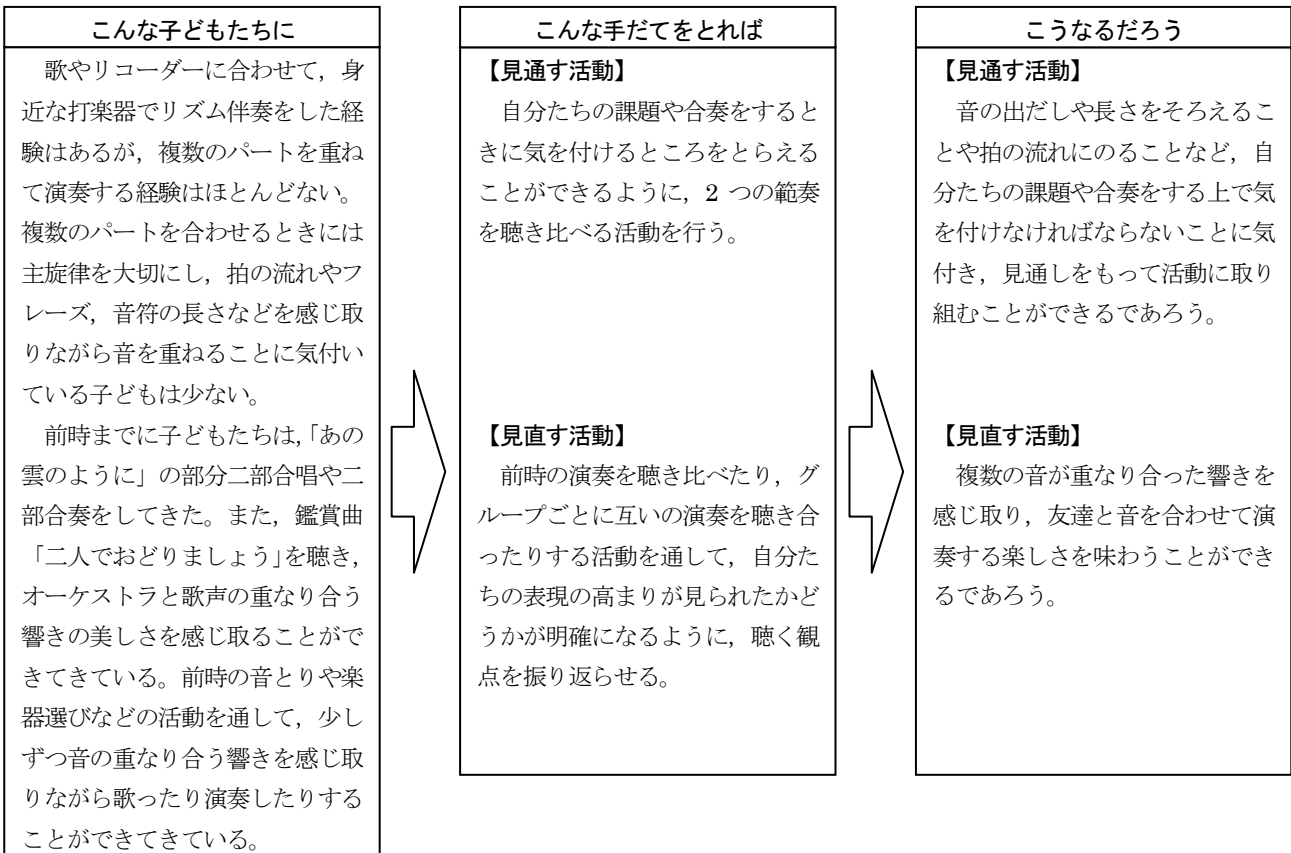
10 本時の展開

学習活動と内容	指導・支援(☆は習得, ★は活用)◆評価規準
<p>1 「あの雲のように」の部分二部合唱を聴き、本時のめあてをつかむ。</p> <p>(1) めあてを確認する。</p> <div data-bbox="204 389 1391 470" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">めあて 大空に広がる雲の様子を思いかべながら歌おう。</p> </div> <p>(2) 見通す活動をする。</p> <div data-bbox="175 510 774 900" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>【見通す活動】 部分二部合唱になった楽譜や範唱をもとに、気付いたことを話し合う。</p> <div data-bbox="175 638 742 862" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p>楽譜の最後の部分を分かれて歌ったんだね。①も②も同じリズムで歌っているね。①と②の声をきれいに重ねて歌うと、雲の重なりや空の広がりを出すことができるね。</p> </div> </div> <p>2 「あの雲のように」の部分二部合唱をする。</p> <p>(1) 副次的な旋律(②パート)に親しむ。</p> <p>(2) ①と②のパートを合わせて部分二部合唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 互いの声を聴き合って歌う。 ○ 部分二部合唱の2つの歌い方を聴き比べ、よりよい表現について考え、学級全体で練り上げる。 <p>(3) 見直す活動をする。</p> <div data-bbox="175 1317 774 1706" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>【見直す活動】 代表児の歌を聴き、よかったところを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ①と②の声をきれいに重なっていました。 ・ 最後の音がしっかりのびていました。 ・ ①と②の声の大きさもちょうどよかったです。 ・ 雲が浮かぶきれいな空の様子が表れていました。  </div> <p>3 学習のまとめをする。</p> <p>(1) 学級全体で二部合唱をする。</p>	<p>○ 前時の学習を想起できるように、情景画や拡大歌詞等を掲示しておく。</p> <p>○ 前時に聴いた範唱(斉唱)と比べながら聴かせる。</p> <div data-bbox="821 510 1420 900" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <div data-bbox="853 593 1388 705" style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p>歌声の重なり合いを聴いて、響きの美しさを感じ取る。</p> </div> <p>☆ 音が重なることによって生まれる曲想の広がりを感じ取ることができるように、斉唱と聴き比べる活動を行う。</p> </div> <p>○ 学級全体を2つのグループに分け、①と②のパート別に歌うことで、音の重なりや拍の流れを感じ取りながら歌うことができるようにする。</p> <p>○ ①と②の声の重なり方や声量のバランス、最後の音ののびし方と終わり方について聴き比べさせて、どちらが曲想に合った歌い方であるかを考えさせる。</p> <div data-bbox="821 1317 1420 1706" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>○ 代表児の歌を聴き、曲想にあった歌い方ができているかどうかを見直す。</p> <p>☆ 互いの声を聴き合って歌うことができたか振り返ることができるように、聴く観点をもたせる。</p> <p>【聴く観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ①と②の声をきれいに重なっているか。 ・ ①と②の声のバランスはいいか。 ・ 最後の音がしっかりのびて、すーっと歌い終わっているか。 </div> <p>◆ 主旋律と副旋律の声をきれいに重ね、歌の終わり方に気を付けて歌っている。(ウー①)</p> <p>○ 互いの声を聴き合って歌うことが美しい二部合唱につながることや、声を重ねて歌うことの楽しさを実際に歌うことを通して感じ取らせ、次時の学習につなげる。</p>

6 本時の目標

- 楽器の音の重なりを感じ取り、工夫して演奏することができる。

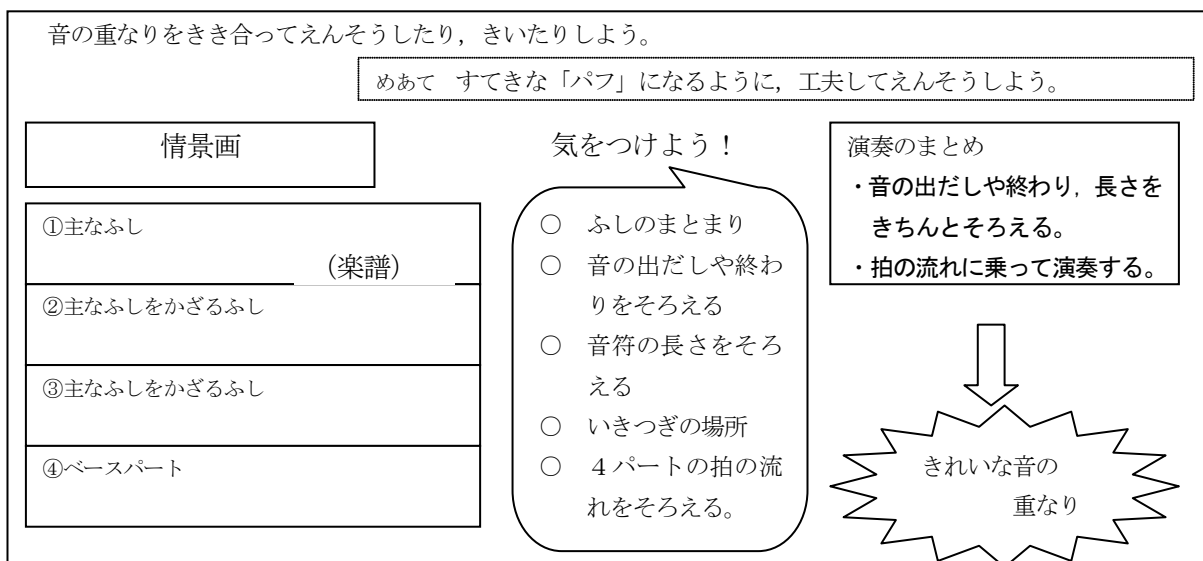
7 本時の授業仮説





8 準備

- 教師…情景画、拡大楽譜 (パート別)、オルガン、鉄琴 (2台)、譜面台、CDプレーヤー
- 子ども…リコーダー、学習プリント

9 板書計画



10 本時の展開

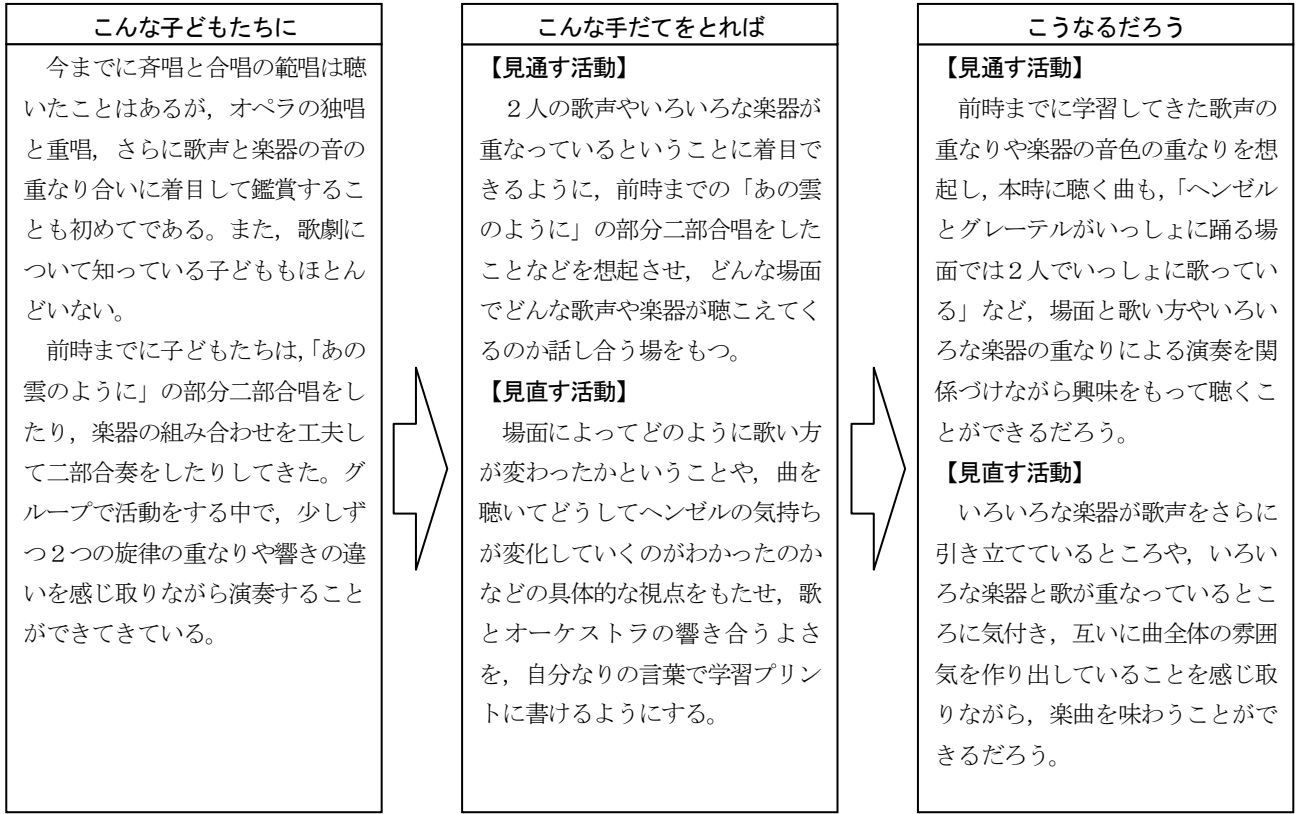
学習活動と内容	指導・支援(☆は習得, ★は活用)◆評価規準
<p>1 本時の活動を確かめる。</p> <p>(1) 全体で「パフ」を演奏し、本時のめあてを確かめる。</p> <div data-bbox="354 376 1134 461" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>めあて すてきな「パフ」になるように、工夫してえんそうしよう。</p> </div>	<p>○ 前時までの学習を想起させるために、前時に決めた楽器やパートで演奏させる。</p>
<p>(2) 見通す活動をする。</p> <div data-bbox="164 521 762 943" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>【見通す活動】 範奏を聴きながら、自分たちの課題や合奏の時に気を付けることを話し合う。</p> <div data-bbox="188 663 743 913" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <ul style="list-style-type: none"> ・ 付点音符の長さが合っていないね。 ・ 長い音符をしっかりのばせていないね。 ・ ふしのまとまりがおかしいね。 ・ 息つぎの場所がそろっていないね。 </div> </div>	<div data-bbox="826 495 1425 898" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>音の重なりや拍の流れを感じながら、音を合わせて演奏すること。</p> <p>★ 自分たちの課題や合奏をするときに気をつけることを捉えさせるために、2つの範奏を聞き比べる活動を行う。</p> <p>○ 付点音符の長さや歌詞にあったふしのまとまりなど、一つずつ気付けるようにする。</p> </div> <p>○ スムーズに練習を行ったり、拍の流れに乗って音を合わせたりできるように、各グループで一人、指揮者役の子どもを選んでおく。</p> <p>○ グループの課題を一つずつ解決し、音の重なった響きを感じ取ったり、合奏の楽しさを味わったりすることができるように、教師が順番に指揮者としてグループに入り、範奏を示しながら指導するようにする。</p>
<p>2 グループに分かれて演奏を工夫する。</p> <p>(1) 2グループに分かれて練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 気をつけるポイントを1つずつ取り上げながら、繰り返し練習するようにする。 ○ ①、②それぞれのリコーダーパートの音の重なりや、①～④のパートで合奏したときの音の重なりがしっかりと合うようにする。 <p>(2) 見直す活動をする。</p>	<p>○ 学習を通して演奏がどのように変わったのかははっきりと分かるように、前時に録音していた演奏と聞き比べる活動を行う。</p> <p>☆ 自分たちの演奏のどの点が良くなったかが明確になるように、聴く観点を振り返るようにする。 (聴き合う観点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音の出だしや拍の流れが合っているか。 ・ 音符の長さ分、音を伸ばすことができているか。 ・ ふしのまとまりがそろっているか。 ・ 息つぎがそろっているか。
<div data-bbox="164 1328 762 1742" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>【見直す活動】</p> <p>○ 前時の演奏と最後の演奏を聴き比べて、感想やそれぞれのグループのよさを発表しあう。</p> <div data-bbox="188 1462 743 1713" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <ul style="list-style-type: none"> ・ 音符の長さが合っていました。 ・ ふしのまとまりがそろっていました。 ・ 長い音符のところをしっかりと音符の長さ分伸ばしていたところが良かったです。 </div> </div>	<p>◆ 音の重なりを感じながら、拍の流れに乗って演奏している。(イー②)</p>
<p>(3) よくできていたところを味わったり、まだ残っている課題に気を付けたりしながら、もう一度グループごとに演奏する。</p> <p>3 本時学習のまとめをする。</p> <p>(1) 演奏のまとめとして、全員で演奏する。</p>	<p>○ 意欲をもって今後の学習に取り組めるように、よくできていたところを伝えるようにする。</p> <p>○ 教師がリズムパートを加えて演奏し、次時はリズムパートを加えた6つのパートで演奏する事を伝える。</p>

5 本時 (5/10 深める段階) 公開授業② 3年 組教室にて 指導者

6 本時の目標

- 歌劇に関心を持ち、歌声とオーケストラの音が重なり合う響きの美しさを感じ取りながら聴くことができる。

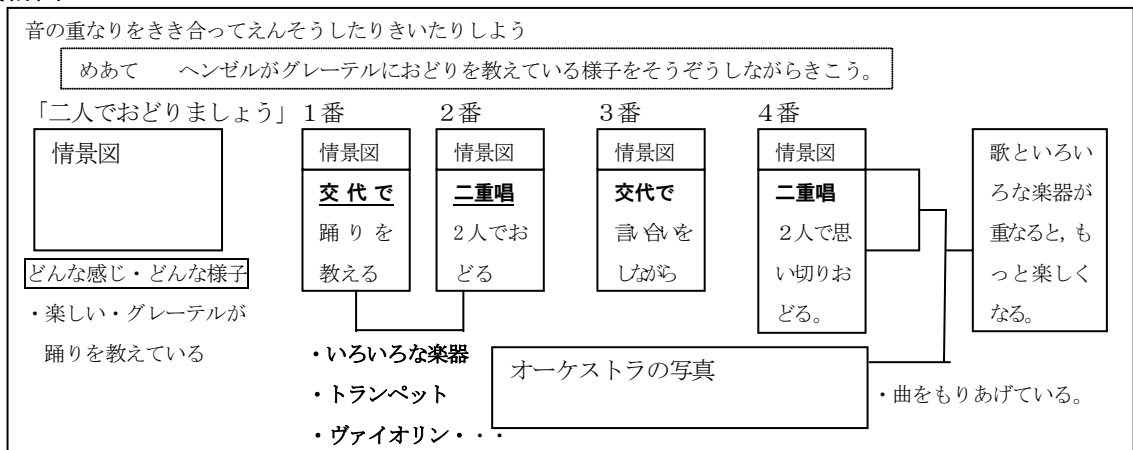
7 本時の授業仮説





8 準備

- 教師…鑑賞CD, CDデッキ, DVD, 情景図, 自動伴奏付オルガン, 学習プリント
- 子ども…教科書, 筆記用具

9 板書計画



10 本時の展開

学習活動と内容	指導・支援(☆は習得, ★は活用)◆評価規準
<p>1 曲の感じをつかむ。</p> <p>(1) どんな場面の曲なのか思い浮かべながら聴く。</p> <p>(2) 曲名を知り、めあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>めあて グレーテルがヘンゼルにおどりを教えている様子をそうぞうしながらきこう。</p> </div> <p>(3) 見通す活動をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【見通す活動】</p> <p>曲を聴いて、どんな場面でどんな歌声や楽器が聴こえてくるのか話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">  <ul style="list-style-type: none"> ・ グレーテルがヘンゼルに踊りを教えるところは、交代しながら歌っているよ。 ・ 二人がいっしょに歌っているところもあったよ。 ・ 最後に二人が踊るところはいろいろな楽器が聴こえるね。 </div> </div> <p>2 場面ごとに、歌声や楽器の響きに気をつけて聴く。</p> <p>(1) ヘンゼルとグレーテルの様子から、4つの場面に分ける。</p> <p>(2) それぞれの場面では、どんな歌声や楽器の響きが聴こえるのかグループで話し合う。</p> <p>(3) 歌劇の演奏形態について知る。</p> <p>(4) 見直す活動をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【見直す活動】</p> <p>歌声といろいろな楽器の響きの重なり合いに気をつけて曲全体を聴き、学習プリントに記入する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">  <p>最後の歌の二重唱といろいろな楽器が合わさるところは、曲が盛り上がっていく感じがして、もっと楽しくなるね。</p> </div> </div> <p>3 本時に聴いた場面をDVDで視聴し、学習を振り返る。</p>	<p>○ 曲に関心をもって聴けるように、事前に読み聞かせをした「ヘンゼルとグレーテル」の話を想起させる。</p> <p>○ 踊っている様子を表していることがイメージできるように、その場面の写真を提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>歌声と楽器の音が重なり合う響きの美しさを感じ取りながら聴くこと。</p> <p>★ 歌声と歌声が重なっているということに着目できるように、前時までの「あの雲のように」の部分を二部合唱したことを想起させる。</p> </div> <p>○ グループで話し合いながら場面の様子と二人の歌い方をつないでいくことで、場面の変化とともに二人の歌い方も変わっていることに気付くことができるようにする。</p> <p>○ 交互唱から二重唱になっていることを捉えられるように、①と②の歌い方をそれぞれ聴き比べるようにする。</p> <p>○ 二人の歌声の重なる響きに気付くことができるように、歌声が重なっているところで手を挙げて合図するようにする。</p> <p>○ オーケストラのいろいろな楽器の響きの美しさや効果に気付くことができるように、楽器の音色や演奏の変化に気付いた子どもの発言を板書に整理する。</p> <p>◆ 歌劇の音楽の楽しさを感じ取ろうとしている。(ア-②)</p> <p>○ 舞台上で演じながら歌う人、舞台下で演奏する人(オーケストラ)がいることを捉えられるように、写真や映像を見せる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>☆ 「①と②の場面の歌い方の違い」や、「ヘンゼルの気持ちの変化はどんな演奏からわかったのか」などの具体的な視点をもたせ、歌劇における歌とオーケストラの響き合うよさを学習プリントに書くことができるようにする。</p> <p>○ 書けない子どもには、場面の様子と歌声が重なるところを結びつけて「最後に二人がいっしょに踊る場面では、どんな歌い方をしていたかな。」などと助言する。</p> </div> <p>◆ 歌声とオーケストラの音が重なり合う響きの美しさを感じ取りながら聴くことができる。(エ-①)</p> <p>○ 歌と楽器の重なりを味わいながら、歌劇の作品に関心をもつことができるように、DVDで視聴するようにする。</p>